



代表取締役社長
古川 健一

0.1 2018年12月期第2四半期の業績について教えてください。

中国での放電加工機の販売が大幅に増加し業績を牽引、売上高は414億16百万円と概ね期初計画通りに推移し、利益率も高水準を確保しました。

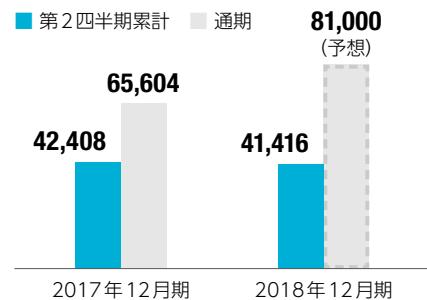
国内では、自動車、半導体関連からの需要が堅調に推移しました。米国では、自動車や航空宇宙関連の需要にやや慎重さが見られました。欧州では、トルコは依然として停滞感が見られましたが、自動車関連を中心にドイツ、イタリア、イギリスなどが牽引し総じて好調を維持しました。中国では、引き続き、ものづくりの高度化及び自動化対応等の影響や政府の補助金政策も後押しとなり、販売が好調に推移しました。アジア地域においてはスマートフォン関連に一服感が見られました。

セグメント別では、工作機械事業は当社の最大市場である中国において、春節休暇明け以降、放電加工機の販売台数が大幅に増加し、売上高、利益ともに堅調に推移しました。産業機械事業は、日本、北米においては自動車関連、医療機器関連を中心に堅調な需要が継続しましたが、中国及びアジアでスマートフォン関連の需要は一服感があり、販売は伸び悩みました。食品機械事業においては、高品質な調理機の製造設備需要が引き続き堅調に推移したほか、包装米飯製造装置の需要は国内及びアジアで継続して増加しました。

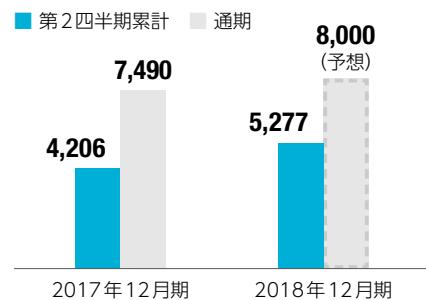
当第2四半期の業績につきましては、売上高414億16百万円と概ね期初計画通りに推移しました。利益面では、放電加工機の販売台数が増加したこと、生産性の向上等により、営業利益は52億77百万円、営業利益率は12.7%と高水準で推移しました。

連結損益計算書の概要 (単位:百万円)

売上高



営業利益



親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益



※2017年12月期は事業年度変更に伴い、9か月の変則決算となります。

地域別の売上高構成



2018年12月期 第2四半期の連結対象期間

	2017年12月期			2018年12月期				
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
旧3月決算会社	1Q	2Q	3Q		1Q	2Q	3Q	4Q
12月決算会社	6か月				6か月			
	9か月				6か月			

※12月決算会社は、中国の連結子会社7社です。

Q.2 取り組みと成果について教えてください。

需要増加に対応するため、国内外において生産体制、営業体制、開発体制を強化しています。

足元の需要増加に対応するため生産体制の強化を進めております。海外では、タイの第2工場を増設し増産体制を構築しております。国内では、加賀事業所(石川県)において市場の変化に柔軟に対応できる生産体制を構築するため、放電加工機、マシニングセンタ、金属3Dプリンタ、射出成形機など、多種多様な製品の生産が可能なマルチファクトリーの建設を進めております。また、北米及び上海での営業拠点を整備し、営業体制を強化しました。横浜本社では、5月中旬に研究開発棟の建設工事が完了し、金属3Dプリンタ関連の研究開発、新電源、次世代CNC等の要素技術の開発を強化しております。

Q.3 通期業績の見通しについて教えてください。

通期業績予想は、売上高810億円、営業利益80億円を計画しております。

米国、中国の通商政策の影響などの懸念材料もあり先行きに不透明感が見られる中で、第2四半期の業績等を踏まえ、通期業績予想は据え置きいたしました。売上高は810億円、営業利益は80億円を見込んでおります。

(単位:百万円)

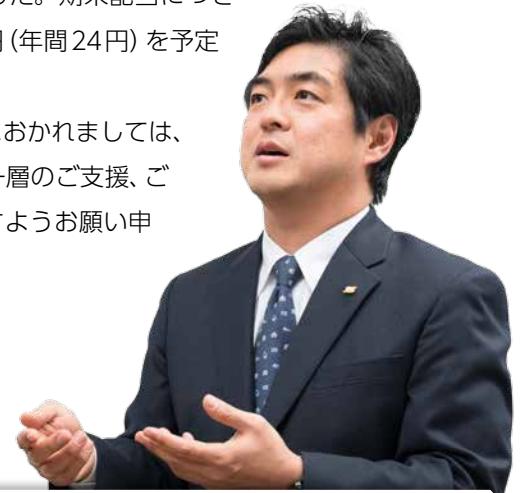
	第2四半期連結業績	通期業績予想	進捗率
売上高	41,416	81,000	51.1%
営業利益	5,277	8,000	66.0%
経常利益	5,185	8,000	64.8%
当期利益	3,677	5,700	64.5%

下期については、9月にアメリカのシカゴで開催予定の世界最大級の工作機械展示会IMTS2018に出展するほか、11月には東京ビッグサイトで開催予定の日本最大級の工作機械展示会JIMTOFに出展し、積極的な営業活動を展開してまいります。JIMTOFでは、金属3Dプリンタのエントリーモデルとして「LPM325」を出展します。「LPM325」は、金属3D造形と二次加工用の基準面だけを加工する機能に限定することで造形速度を大幅に向上させるなど、多様化する金属3Dプリンタへの要求に対応するモデルとなっています。その他にも、放電加工機、マシニングセンタ、射出成形機などの最新鋭機種を展示するほか、AIやIoT、自動化ニーズの高まりを踏まえ、次世代のものづくりをサポートする最新技術を展示する予定です。ご都合がございましたら当社ブースまでお越しいただければ幸いです。

Q.4 配当について教えてください。

当社は、DOE(株主資本配当率)2%以上を目標とした安定的かつ継続的な配当を実施するとの基本方針に基づき、当期の中間配当は1株につき12円とさせていただきます。期末配当につきましては、12円(年間24円)を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

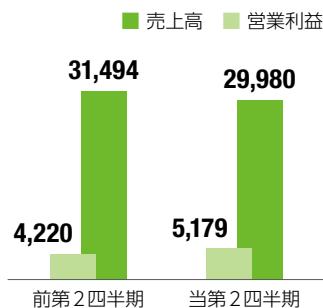


セグメント別の概況 (単位:百万円)

工作機械事業

放電加工機、マシニングセンタ、金属3Dプリンタ等の開発・製造・販売

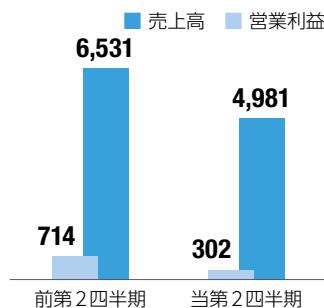
- 中国/自動車、半導体関連を中心に販売が大きく伸長
- 米国/自動車関連で慎重さが見られる
- 日本/自動車、半導体関連で需要堅調
- 欧州/ドイツ、イタリア、イギリスを中心に自動車、航空宇宙関連の需要堅調
- アジア/自動車関連を中心に需要あり



産業機械事業

射出成形機等の開発・製造・販売

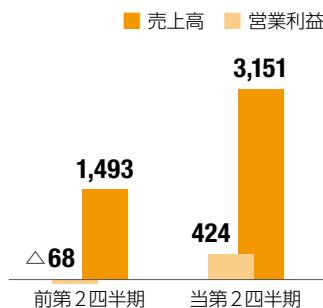
- 日本/自動車関連の需要堅調
- 北米/医療機器関連を中心に堅調な需要が継続
- 中国、アジア/スマートフォン関連の需要で一服感



食品機械事業

種製造プラント、製麺機等の食品機械及びその応用製品の開発・製造・販売

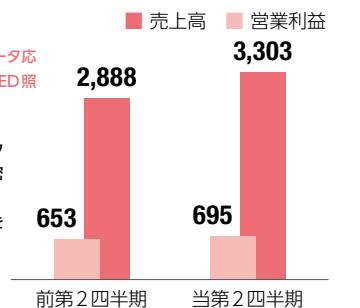
- 高品質な調理種の製造設備需要が引き続き堅調
- 包装米飯製造装置の需要は国内・アジアで継続して増加
- 受注・出荷は概ね計画通り
- 検収が遅れていた案件も第2四半期で計上。売上高もほぼ計画通り



その他事業

プラスチック成形品等の製造・販売、リニアモータ応用製品、セラミックス製品及びその制御機器、LED照明等の開発・製造・販売、当社製品等のリース

- 精密金型、精密成形事業では金属3Dプリンタで造形した金型と専用成形機を用いた高精度金型成形の開発に取り組み中
- セラミックスの販売が半導体製造装置向けを中心に好調に推移



※2017年12月期は事業年度変更に伴い、9か月の変則決算となります。